

MURC Focus

スペイン経済の強みとしての人口増

～今後も中南米出身者の流入に支えられる見込み～

調査部 主任研究員 土田 陽介

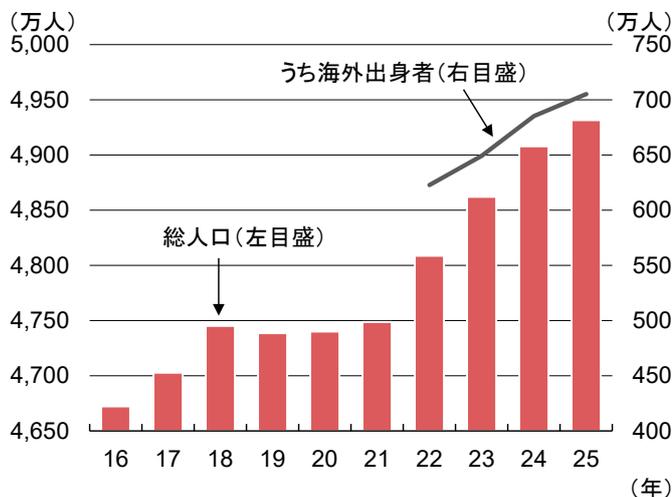
- コロナショック明けの2022年以降、スペインの人口が増え続けている。人口増加を支えているのは移民であり、近年は主に南米や北アフリカからの移民が増えている。
- スペインでは、移民労働者の多くが低付加価値産業に就労している。そのうち宿泊・飲食業は、スペイン経済の成長の源泉の1つであるインバウンド観光を支える重要な産業である。
- スペインでも不法移民対策を求める声が強まっている。ただしスペイン国民は中南米からの移民に対して友好的であるため、そうした人々の流入に支えられ、スペインの人口は増加が続くだろう。

1. 移民に支えられて増加が続くスペインの人口

コロナショック明けの2022年以降、スペインの人口が増え続けている。国立統計局(INE)によると、スペインの人口は直近2025年6月末時点で4,932万人に達した(図表1)。一方で世銀によると、スペインの合計特殊出生率は2023年時点で1.12と、人口動態の安定に必要な2以上を大きく下回っている。つまり、スペインの人口増加を支えているのは移民である。

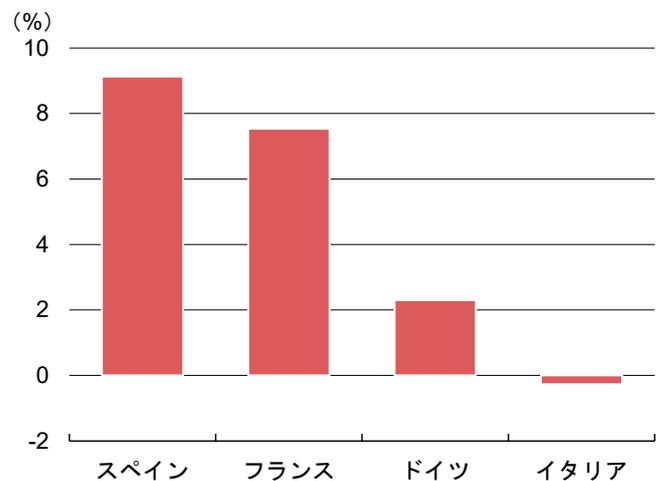
スペインの人口に含まれる海外出身者(≒移民)は順調に増加しており、2025年6月末時点で705万人と、人口の14%を超えている。かねてよりスペインには、中南米諸国からの移民や東欧・アフリカからの出稼ぎ労働者が多く流入していたが、INEによると、近年は主に南米のコロンビアやベネズエラ、ペルー、アルゼンチンなどから、またモロッコやアルジェリアといった北アフリカからの移民が増えている。

図表1. スペインの人口



(注1) 2025年は6月末のデータ。
 (注2) 最新ベースの海外出身者のデータは2022年から。
 (出所) スペイン国立統計局(INE)

図表2. 労働人口の増減率の比較(2016年/2025年)



(注) 2025年は6月末のデータ。
 (出所) ユーロスタット

こうした安定的な人口の増加を受けて、スペインの労働人口は 2016 年から 2025 年までの 10 年間で 9.1%増加している(図表 2)。EU の他の主要国と比較すると、フランスが 7.5%、ドイツが 2.3%、イタリアが▲0.3%であり、スペインの堅調ぶりが際立つ。世界的に人手不足の深刻化が指摘されて久しいが、移民の流入に支えられたスペインの労働供給は、EU の中でも余裕がある状況と判断される。

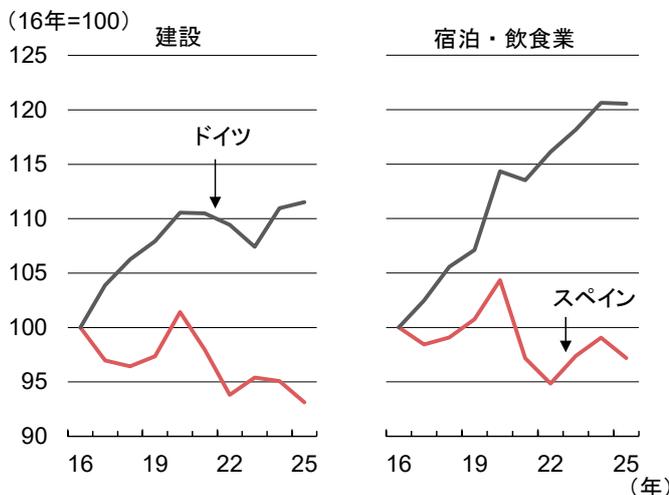
2. 主に低付加価値産業に就労する移民労働者

他方で、スペインに入国した移民の多くが、低付加価値産業で就労している模様である。その代表的な産業として、建設業と宿泊・飲食業がある。この 2 つの産業に関して、実質労働コスト(消費者物価ベース)の動きを確認すると、スペインの場合は 2025 年時点において建設業で 93、宿泊・飲食業で 97 と 2016 年と比べて減少している。対するドイツは、建設業が 112、宿泊・飲食業が 121 と急増しており、対照的である(図表 3)。

うち宿泊・飲食業は、スペイン経済の成長の源泉の 1 つであるインバウンド観光を支える重要な産業である。スペインのインバウンド観光の強みは、周辺諸国に比べても低いサービス価格にある。そして、低いサービス価格を実現することができる大きな要因の 1 つが、移民労働者や出稼ぎ労働者による就労だと推察される。さらに、そうした人々の多くが、統計に反映されない非合法的形で就労していると考えられる。

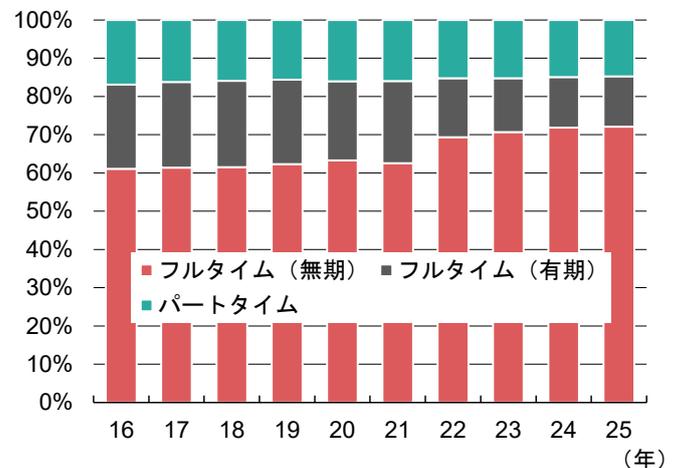
スペインでは、若年労働者は非正規雇用で雇用されるか、あるいは正規雇用でもまずは有期で雇用された後に無期へ転換する(図表 4)。近年は好景気もあって正規の無期雇用が増えているが、対して移民労働者や出稼ぎ労働者は、統計に反映されない非合法的形で就労することが一般的である。彼らは母国に比べれば高い所得を手に入れることができるため、社会保険などが適用されなくてもそうした雇用形態を受け入れる。そして、そうした移民労働者や出稼ぎ労働者が、スペインの高い価格競争力を陰で支えている。

図表3. 実質労働コストの比較(スペインとドイツ)



(注) 2025年は6月末のデータ。
(出所) ユーロスタット

図表4. スペインの雇用形態の推移



(注) ただし合法的形で就労した雇用者に限定される。
(出所) INE

3. 引き続き移民が流入する見通し

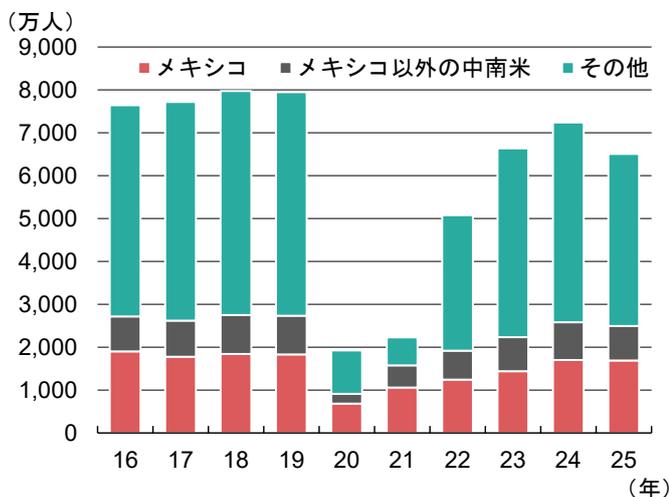
今後もスペインには、多くの移民が流入し続けると考えられる。とりわけ中南米からの移民に関しては、米国の第二次トランプ政権が国境管理、それも特にメキシコ国境を通じた不法移民対策を厳格化している影響を受けるため、スペインへの流入が続くと考えられる。現状の米国では、国境管理が厳格化された結果、2025年の入国者数が2020年のコロナショック以来の減少となる公算が大きくなっている(図表5)。

そもそも中南米のほとんどの国では、その歴史的な経緯や公用語がスペイン語であることなどから、移民先としてスペインの人気の高い。そのため、米国に入国できなくなった中南米出身者がスペインに移民を試みるケースが増えると考えられる。なお第一次トランプ政権が入国管理を厳格化した際も、スペインは中南米からの移民を積極的に受け入れた経緯がある。

もちろんスペインでも、移民や難民を巡る軋轢が生じている。とりわけ、中東やアフリカから流入する不法移民に対する国民の視線は厳しさを増している。こうした中で、右派政党であるVOXが急増する不法移民の本国送還(リマイグレーション)を主張し、一定の支持を得ている。さらにスペインで暮らす移民や難民の中でも、中南米出身者と非中南米出身者の間で摩擦が生じている模様である。

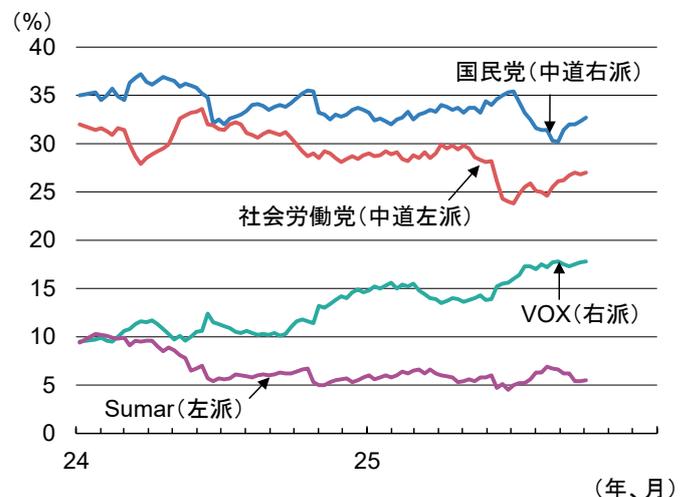
スペインの次期総選挙は2027年8月までに行われる。現職のアランチャ・サンチェス首相は続投を目指すとしているが、自身が属する中道左派の社会労働党は現状でも少数与党であり、また支持率も低迷している(図表6)。対する中道右派の国民党も国民の支持を吸い上げ切れていないため、主張をよりタカ派にシフトしたり、議会で安定多数を得るためにはVOXと連立政権を組んだりする必要がある。

図表5. 米国の入国者数



(注) 2025年は上半期の年率換算値。
(出所) 米商務省旅行観光局(NTTO)

図表6. スペインの主要政党の支持率



(出所) EM-Analytics/Electomanía

こうした環境に鑑みれば、スペインでも不法移民対策や難民対策が強化される公算が大きい。一方でスペインには、その“地域ナショナリズム”(例えばカタルーニャ地方やバスク地方など)の強さゆえに、右派の下で国民のコンセンサスが形成されにくいという特徴もある。それにスペイン国民は、中南米出身者に対して友好的であるため、今後もスペインの人口は、中南米からの移民の流入に支えられて、増加していくと考えられる。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱 UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。